令和６年３月号

ノア Smile

春日部セントノア病院

〒344-0001
埼玉県春日部市不動院野１１１２-１
TEL048-760-1200
FAX048-760-1201
https://www.saintnoah-kasukabe.jp

～目次～

●病院短信　大西　景子
●日常の一コマ　高柳　美佐子
●いきいき看護・介護　竹田　裕美
●検査科だより　木村　収実
●節分＆誕生会　デイルームにて
●スタッフ紹介　佐藤　ヒロ子

３月の予定

◇誕生日会

１病棟	３月　４日（月）	
２病棟	３月　５日（火）	
３病棟	３月　８日（金）	
	各病棟デイルーム	１４：００～

例年通りノコノコとやってきた鬼、威勢が良かったのははじめの頃だけで徐々に…

やはり多勢に無勢、大勢の患者さんの気迫に押されすごすごと退散となりました。

皆さんのご健康とご多幸をお祈りいたします！（鬼・職員連合より）

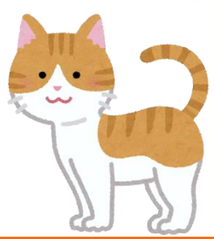
スタッフ紹介

１病棟　介護主任

佐藤（さとう）　ヒロ子（こ）

血液型：Ｏ型
同居人？！：クロス（猫♂）
特技：くよくよしないこと
好きな歌手：サザンオールスターズ・back number

最近手にしたメッセージカードに「忘れてはいけないもの…感謝の心・ありがとうの言葉・努力すること・優しい心・元気な笑顔・愛すること・許すこと」と書いてありました。
もうすぐ還暦を迎えるお年頃になってしまいましたが、このメッセージカードの言葉を心に留めて、いつも元気に過ごしていきたいと思います！



病院短信

『伝える』ことの大切さ

2病棟看護師長　大西　景子

早いもので今年も三月です。暖かさは日に日に増し、今年の桜も昨年より早く咲くそうです。昨年の十一月より二病棟の看護師長を任されることになりました大西です。当院の理念である患者さんへの『その人らしく』はもちろんのこと、ご家族との関わりも大切にしながら、日々精進していきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

実は、私には二十六歳になる息子がいます。その息子が七才の頃、小児病棟に何度か入院したことがありました。当然、息子への付き添いは、夜間はもちろんのこと一日のうちごく限られた時間でした。母親としては「泣いていないだろうか」、「ご飯は食べただろうか」、「痛く苦しい思いはしてないだろうか」。そんなことばかり考えていました。

そんな時病棟に行くと、看護師さんが「今日はご飯が美味しかったようで、全部食べましたよ」、「同室の男の子と大声で笑っていましたよ」など、日常の様子や何気ない一コマを教えてくれました。それが当時の私には、何よりも嬉しく安心できたことを今でも鮮明に覚えています。きっとその時、私が一番知りたい情報だったからでしょうね。

病棟では、ご家族からお電話を頂くことがまゝあります。患者さんの様子を「すみません、お忙しいのは分かっているのですが、その後の状態はどうでしょうか」、「他の患者さんにご迷惑をかけてないでしょうか」など、大変恐縮されながら聞かれます。そんな時、私は二十年前の小児病棟を思い出すのです。

当院ではご家族の大切な患者さんをお預かりしています。そして私たち病棟スタッフは一人ひとりのその日の状態や、心身の変化などを見逃さないよう、常に観察しています。心身の状態はもちろんですが、日常の何気ない一コマなど、ご家族が知りたい情報をお伝えすることも私たちの大事な仕事だと思っています。ですからどうぞお気になさらずに、気になることは何でも遠慮なく聞いて頂きたいと思います。

毎日、患者さんが笑顔で穏やかに過ごせますように。そしてご家族の皆さんにも安心して頂けますように。今後も、病棟スタッフ全員で努力していきたいと思っています。

検査科 だより

臨床検査技師　木村　収実

新型コロナ関連の記事を書くのも今回で都合５回目となりました。ご存じのように昨年の５月から新型コロナが感染症法の第５類に分類され、スポーツ観戦や音楽ライブなどでもマスクを外しての声出し応援が出来るようになり、また普通に旅行に出かけるようになったりと、私たちも普段の生活環境に戻りつつあります。

しかし、当院のように高齢の、しかも認知症の方々の入院施設では、依然として職員たちはマスクをし、発熱をした場合にはコロナやインフルエンザのウイルスの有無を確認するため「抗原検査」を行っています。

この「抗原検査」、通常では鼻（鼻咽頭）に綿棒を挿入されます。鼻の奥でグリグリされるため、痛い思いを経験した人もいらっしゃると思いますが、実はその「抗原検査」は、他にも『唾液で検査を行う方法（痛みは全くありません）』もあり、これも厚労省から承認されています。

当然、皆さんは痛くない方を選びますよね。この鼻咽頭と唾液の検査。はたしてどちらがウイルス検出の精度が高いのでしょう。そこで当院では、熱発等の体調不良を起こし、検査が必要になった職員たちに、「唾液での検査」と「鼻咽頭又は鼻腔での検査」を同一検体で同時に行い、どちらがウイルス検出の精度（陽性か陰性か）が高いのかを確認するために５人にお願いしました。

５件という少ない検査数ではありましたが、その結果は５件とも「鼻咽頭」での検査は『陽性』で「唾液」での検査は全て『陰性』という結果となってしまいました。

もちろんこの検査結果は５件というごく少数の検査であり、この結果が正しいという事ではありません。でも、もしも皆さんが市販されている検査キットを購入されるなら、『鼻咽頭か又は鼻腔用のキット』を購入することをお勧めします。

日常の一コマ

今月は１病棟の妙子さん（89 歳）をご紹介します。北海道にて７人兄弟の３番目として生まれ、高校卒業後は薬局で働いていました。20 歳で結婚し、ご主人の転勤に伴って東京や大阪などを転々とした後、最終的には埼玉に落ち着かれました。そして平成３年にご主人に先立たれてからは、お孫さんの世話をして過ごされていました。

平成 29 年、同居していた妹さんが亡くなられて以降、「同じ話を何度もする」「娘さんに頻繁に電話を掛ける」などの症状がみられたため、脳神経外科を受診したところ、アルツハイマー型認知症と診断されたそうです。その後も娘さんへの電話はさらに増え、多い時には１日 90 回程かけてくるようになりました。令和２年に介護老人保健施設に入所しましたが、帰宅願望がとても強く、服薬を拒否したり暴言や暴力などもみられたため、施設入所から３か月後に当院へ転院してこられました。

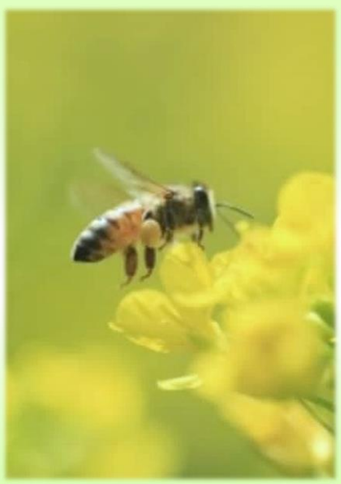
入院当初は帰宅願望や不安感が強く見られましたが、当院での生活に慣れてくると、徐々に落ち着かれていきました。社交的な性格の妙子さんは誰とでもすぐに仲良くなることが出来ましたし、コップを拭いたりおしぼりを丸めたり、毎日お手伝いをしてくれました。おしぼりを丸める時などは「ゆるまないように力強く巻かないとダメなのよ」と誰よりも綺麗に丸めてくれました。また、１階の談話室でコーヒーを飲んでいた時に「私コーヒー大好きなのよ」と、ご主人やかわいがっていたペットの話を笑顔でされていました。いつも声かけに「ありがとう」と笑顔で返してくれる妙子さん。スタッフの体調変化にも気が付き「腰が痛いの？」「風邪引いたの？」「大丈夫？」など声をかけてくれました。しばらくは落ち着いた生活が続いていましたが、腰椎圧迫骨折や帯状疱疹などを発症してからは、「お姉さーん、痛いよー」と大声で叫ぶことも多くなり、意思疎通が難しい日が増えてきました。できるだけ寄り添って話をしているうちに落ち着かれることもありますが、痛みや辛さの訴えが続くときは部屋で休む時もあります。夜間、大声を出される時はベッドをデイルームに移動させて、スタッフが寄り添いながら声掛けを行うことによって眠りにつきます。

私たちには寄り添い、声をかけ、話に耳を傾けることしかできませんが、私は妙子さんが言ってくれる「ありがとう」が大好きです。これからも「ありがとう」と笑顔で言ってもらえるよう寄り添っていきたいと思います。

１病棟　介護福祉士　高柳　美佐子

いきいき看護・介護

３病棟　介護福祉士　竹田　裕美

デイルームで仕事をしていると、「何かやることはありますか？」「何かやらせていただけませんか？」と声をかけてくれる患者さんがいます。私はその言葉に甘えて、おしぼりをたたんでもらったり、洗ったコップを拭いてもらったり、軽作業を手伝ってもらっています。一人の患者さんが作業していると、「私もやるわよ」とお手伝いをしてくれる人が増えていきます。時々、患者さん同士で取り合いになってしまうこともありますが、作業をする仲間が自然に増え、数人で声をかけ合いながら作業を分担して行っています。

作業が終わり、「いつも助かります。ありがとうございます」と言うと、「いえいえ、仕事をくれてありがとうございます。」と逆にお礼を言われてしまいます。仕事を手伝っていただき本当に感謝しているので、この場を借りて改めてお礼をさせて頂きます。皆さん、ありがとうございます。